

身近な情報をお寄せください

総務課行政係 ☎74-3132

✉gyousei@town.kanra.lg.jp



思い込めた詩が歌に ふるさとコンサート

第36回甘楽町ふるさとコンサートが2月22日に文化会館で開かれ、童謡作詩コンクールの入賞作品の発表と表彰式が行われました。

町内小中学生を対象とした同コンクールには、日常生活で感じたことを素直に表現した作品や、希望に満ち溢れた表現力豊かな作品333点の応募がありました。

かぶらマンドリンクラブ、コールオリーブ、さくらコーラス、グリーンホーンズオーケストラがそれぞれ入選作品に曲をつけて発表したほか、各団体の演奏や合唱も披露されました。また、富岡市民吹奏楽団がゲスト出演し、同楽団と交流のある甘楽中学校吹奏楽部も加わり

重厚感ある演奏が行われました。

入賞作品はこちらから→



入選作品に曲をつけ発表。写真は山田さんとかぶらマンドリンクラブ



左から堀込さん、恩田さん、山田さん、田中さん

◎童謡作詩コンクール入賞者(敬称略・学年は令和7年度)

入 選	
小さなかいじゅう	田中陽菜子(小幡小3年)
ちゃぶ台と私と…	山田朱璃(小幡小6年)
見上げた夏の空	恩田優衣(甘楽中1年)
ありがとうをみんなに	堀込彩光(甘楽中1年)
佳 作	
パンヤ	森田のの(小幡小3年)
虫の歌	武田紗英(新屋小2年)
ウミガメのうた	小井玉理真(新屋小2年)
わた毛の旅	柳澤大雅(小幡小3年)
ゴミ箱の気持ち	黒澤千晶(新屋小6年)
みんなの素敵な過ごし方	岸 せいら(甘楽中1年)
明るい未来へ	高柳真帆(甘楽中1年)
プラスの数	浅見百咲(甘楽中1年)
地球で生きる人	森平陽香(甘楽中1年)
青空の下で	入山柚乃(甘楽中1年)

健やかな成長を 家庭の日推進大会

第19回かんら家庭の日推進大会(町青少年育成推進員連絡協議会・町教育委員会主催)が3月1日、文化会館で開かれました。

大会は、生活の基盤で家族の心のよりどころでもある「家庭」の役割を改めて考え、家庭の大切さや家庭の役割のすばらしさに気づき、青少年が自身の行動に責任と社会の一員としての自覚を深めてもらおうと毎年実施しています。

当日は、町内小中学生を対象とした「家庭の日」「少年の日」の標語や作文など各種コンクールの表彰式が行われ、アトラクションとして甘楽中学校吹奏楽部の演奏が披露されました。

入賞作品はこちらから→



「少年の日」標語



「家庭の日」作文



「家庭の日」標語

◀各部門の最優秀賞の皆さん

思い出を胸に 未来へ羽ばたく

甘楽中学校第10期生102人の卒業式が3月13日に同校体育館で行われました。保護者や在校生に見守られる中、卒業生は堂々と入場し、一人ひとり校長先生から卒業証書を受け取りました。答辞では中学校生活の思い出や感謝の気持ちが語られ、会場は感動と温かな雰囲気になりました。

式典終了後、卒業生は先生や友人と寄せ書きを交わしたり、写真を撮ったりしながら別れの時間を過ごしました。3年間思い出を重ねた学びやに笑顔で別れを告げ、新たな決意を胸にそれぞれの未来へ歩み出しました。



仲間と卒業の記念撮影



笑顔で「3年間ありがとう！」



卒業生代表による答辞

町の恵みをそのままに 町内産有機スムージー完成

町の新たな名物づくりを目指して開発が進められていた「町内産有機農産物スムージー完成披露発表会」が3月12日、道の駅甘楽で開かれました。

このスムージーは、町内で収穫された有機農産物を使い、「地域の恵みをそのまま飲む」をコンセプトに、同道の駅と東日本調理師専門学校(高崎市)の青木茂治校長、学生4人が協力して開発したもので、2月12日には試飲会が行われ、町オーガニック推進協議会消費者部会員などの意見を取り入れながら改良を重ねました。



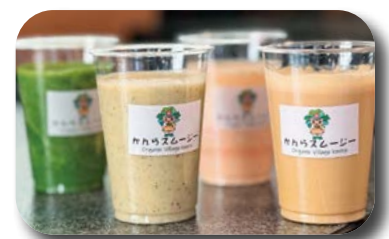
試飲会で青木校長(右)の話聞きながら味を確かめる参加者の皆さん



協力した東日本調理師専門学校の学生の皆さん

完成したスムージーは、それぞれニンジン・ハウレンソウ・キウイ・オリーブを主原料とした4種類です。

3月17日から同道の駅で販売されており、価格はいずれも450円。4月からは季節や仕入れ状況に応じて、日替わりで提供されます。



カラグア大使と国際交流給食 甘楽中



町と交流のある中米ニカラグアのサンディ・ダビラ駐日大使が2月24日、甘楽中学校を訪れ生徒と一緒に給食を楽しみました。

この日は、豆とタマネギのご飯「ガチョピント」や、豚肉と野菜を煮込んだ「インディオ・ビエホ」など、ニカラグアの料理が登場。大使は「どれもとてもおいしい」と笑顔を見せました。

町では、東京五輪で同国のホストタウンになったことから、日本との外交樹立記念日の2月20日前後に毎年ニカラグア料理の給食を提供しています。



森平町長(前列中央右)、近藤教育長(前列右)や関係者の皆さんと交流を深めたサンディ・ダビラ駐日大使(前列中央)

春の訪れとともに 観光キャンペーンはじまる

国指定名勝 楽山園の「春の茶会」が3月15日、園内の凌雲亭で先着150人限定で開かれました。

茶道裏千家篠原社中の皆さんがお茶をたて、参加者は落ち着いた雰囲気の中で抹茶と和菓子を味わいました。茶会の後には、織田氏が築いた庭園を歩きながら、春の気配を楽しむ人も見られました。



また、旧甘楽第二中学校校舎をメイン会場に「甘楽の雛祭り」が始まり、4月12日まで展示されています。皆さんから寄せられた約2,000体のお雛様が並び、来場者は時代によって異なる段飾りの内容や人形の顔などを見比べていました。

人権意識育む取り組みを評価 甘楽中に感謝状

第44回全国中学生人権作文コンテストにおいて、長年にわたり生徒たちが人権作文に取り組み、人権意識向上に貢献したことが評価され、法務省・全国人権擁護委員連合会および前橋地方法務局・群馬県人権擁護委員連合会から甘楽中学校(井上高広校長)に感謝状が贈られました。

生徒会長の越田星那さん(3月時点、2年)は「人権は生きていくうえで重要なものであり、今回このような感謝状をいただきうれしく思います。中学生としてこれからも人権について理解を深めていきたいです」と話しました。



代表して感謝状を受け取った生徒会長の越田さん(右)と副会長の斎藤さん(左)

地域の魅力を遊びながら学ぶ 地域すごろく完成

新屋地区の魅力を詰め込んだ「地域すごろく」のお披露目が2月25日、新屋学童保育所で開催されました。

遊びながら地域の魅力を再発見し、郷土愛を育むことを目的に、町と高崎商科大学短期大学部が連携して小学生向けに制作されました。地域にちなんだクイズやミッションをクリアしながらゴールを目指し、地区の施設や名所の概要、簡単な英語表記を学べるよう工夫されています。

当日は、森平町長をはじめ、すごろく作りに関わった新屋学童保育所の児童、大学の学生や先生、地域おこし協力隊員、町職員ら約30名が参加しました。

完成したすごろくは小学校などへ配布され、授業やレクリエーションに活用される予定です。



完成した「地域すごろく」を楽しむ児童たちと清水教授
(左から2人目・高崎商科大学短期大学部)

にぎわう祭典 下井天満宮天神祭

下井天満宮(善慶寺)の天神祭が2月22日に行われ、地域住民などおよそ120人が訪れました。

祭典では、餅投げや子ども向けのお菓子のつかみ取りなどが行われ、訪れた人たちは歓声を上げながら楽しんでいました。

また、大道芸人によるパフォーマンスも披露され、軽快なトークや迫力ある技に会場は大きな拍手と笑いに包まれました。境内では絵馬を奉納する人の姿も見られました。



餅投げを楽しむ来場者の皆さん

お囃子の音とともに 笹森稲荷神社 春季例大祭

笹森稲荷神社の春季例大祭が3月7・8日に行われました。

7日には稚児行列や屋台などが囃子の音とともに福島地区を練り歩き、多くの方が写真に収めていました。8日には露店市が開催されるなど大勢の参拝客でにぎわいました。



境内で奉納される笹森稲荷神社浦安の舞

◀4月に小学校入学を迎える子どもたちによる稚児行列